

第 1 回 岡山市場再整備検討委員会（令和 8 年度）
会議録【HP 掲載用】

日時：令和 8 年 6 月 25 日（木）14:00～15:30

場所：岡山市役所本庁舎 3 階 第三会議室

出席者：

【委員】

学識経験者	2 名
卸売業者	5 名
仲卸業者	4 名
場内関係者	1 名
出荷団体	2 名
小売事業者	1 名
金融事業者	1 名
消費者	1 名

【事務局】

岡山市 市場事業部

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

(1) 岡山市場再整備事業の検討の進め方について

発言者 A 岡山市場再整備検討委員会と作業部会は、それぞれの役割分担を明確にし、効率的に進めることが必要ではないか。作業部会での議論するテーマ、検討委員会で協議・判断すべきこと、作業部会での議論の結果がどのように検討委員会に上げられ、どのように基本計画に組み込まれていくのか、といったことについて明らかにしてほしい。

発言者 A 作業部会は、途中でメンバーの入れ替えも可能と認識している。個人による意見表明の場にとどまることなく、組織を代表した意見を積み上げられる進め方としてほしい。

発言者 B 作業部会の議論を積み上げると、導入する機能が膨らみ、コストがかさむ状態になる懸念もある。再整備検討委員会では、全体の予算や使用料を勘案し、いわばブレーキをかける役割も果たす必要があるのではないか。

発言者 C 作業部会では、部門ごとに基本的な要件について議論を行い、検討委員会では市場全体の在り方を議論していくものであるとよい。今年度末（3月）までに取りまとめる中間案までの間に、取扱数量・施設規模・導入機能について作業部会で一定の結論を得ておくべきであり、次年度以降、遡って検討し直すことは避ける必要がある。

(2) 「再整備事業コンセプト（案）」について

発言者 D 他都市では、再整備事業が苦戦するような話も聞いている。中東情勢などにより建設資材などの経費はこれからも高騰が続くことが予想される。岡山市場は大都市の事例を真似する必要はなく、市場として本来求められる機能を見つめ直し、川上・川下の間にある「川中」としての役割をしっかりと果たせる市場を目指していくべきである。作業の共有化や市場での仕分けなどを通じた産地の負担軽減にも取り組むべきである。

発言者 D 2024 年問題も解決していない。市場関係者にとどまらず、物流事業者等の外部有識者などからも知見を得る機会があると良いのではないか。

発言者 D 今後求められる市場の役割の一つとして、食育や保育園の整備なども検討していく必要があるのではないか。次世代を担う子ども達に食への親しみを持ってもらうとともに、市場関係者が子どもを預けて働きやすいという利点もある。

発言者 E 「整備の方向性のポイント」について、卸売業者としては理解できる。一方で、仲卸業者が抱えている課題感はこの資料には表しきれていないのではないか。オール岡山市場として取り組むために、仲卸業者も納得感を得られるような再整備の検討が望ましい。

発言者 F 他市場では再整備に伴う使用料高騰の問題も聞いている。コンパクト化などを図りながら、市場の使いやすさと場内事業者の事業継続を両にらみで再整備を進めてほしい。

発言者 A 他市場での再整備の取組からは、事業費の抑制や合意形成の重要性を学ぶことができる。実現可能な使用料と、十分な合意形成のもとで再整備を進めるべきであり、どのような卸売市場を次の世代に残すのかが重要な点である。

発言者 A 再整備にあたって検討する点は、市場規模のコンパクト化・効率化を進めつつも、市場機能というコアの部分の強化、市場再整備を機とした卸売業者・仲卸業者の経営基盤の強化、中四国地域の結節点としての他市場との差異化をはじめとする岡山市場らしさの追求、の

3点である。

発言者 G 施設規模や取扱数量といったハードの側面はある程度自然に固まっていくものであるが、働く時間の改善や DX の推進などソフト面の改善にも積極的に取り組んでいく必要がある。

発言者 H 卸売業者からも仲卸業者についてご意見をいただいた。その通りであると認識している。仲卸業者を代表して本日出席しているが、10 社以上ある仲卸業者の意見を全て伝えることは難しい。作業部会を通じて、個々に事情の異なる仲卸業者の意見を拾い上げ、合意形成が図られることが望ましい。

発言者 I 施設面でもユニークさを持った市場を目指してほしい。また、機能面ではコールドチェーン化は必要であると思う。30～50 年先を見据え、エネルギーの観点から太陽光発電を活用するなど検討してほしい。

発言者 J 以前と比べて、生産者との距離が生まれ、現場の実態がわからないという課題を持っている。品質・数量面の情報が伝わってこないことも多く、再整備を機に課題解決に取り組めると良い。

発言者 B コンセプトについては概ね理解できる。ただし、ここから再整備事業に 10 年近く時間がかかると思えば、今は目新しい機能も完成したころには古くなってしまう。柔軟性や可変性を持って検討を進めていくことが重要ではないか。

発言者 B コンパクト化という言葉が意味することは、スペースの減少であると認識している。現時点でも仲卸業者は作業場が不足しているような状況であり、検討に当たっては十分に考慮してほしい。

発言者 C 今後の議論を進めるにあたっては、コンセプト案の言葉を噛み砕き、やるべきことや水準を全員が一致してイメージできるようにしておく必要がある。例えばコンパクト化については、ただ面積を小さくするだけではなく、時間によって利用者を変更したり、動線整備などを含めた無駄を省いたりすることが考えられる。また、品質管理についても、産地と卸売業者、仲卸業者によっても、求める水準が異なることに十分考慮すべきである。

発言者 B デジタルインフラについてはコンセプトの中に位置づけられていない。高機能な Wi-Fi などの整備は必須ではないか。また、デジタルコンテンツに力を入れているような事例も多い。

(3) 市場の立地方針について

発言者 D 移転の候補地がないという大前提は踏まえるべきである。仲卸業者の店舗スペースなどは動線面含めて、現在の施設構造は悪くないので上手く活用できるとよい。

発言者 E 移転が望ましいと考えていたが、費用や候補地が無いということから、現時点では現地での建て替えが望ましいと考えている。ただし、ローリング工事を行う場合に、市場運営にどの程度影響が出るのかについては懸念がある。また、青果は高速道路の I C 付近に輸送拠点があることが望ましいため、別途検討したい。

発言者 F 物流の観点からは I C 付近が望ましいが、候補地が無い状況を踏まえれば、現地での再整備も致し方ない。

発言者 A 資料を見る限り、現地での再整備が望ましいと考える。余剰地が出てくることになると思うが、

あくまでも卸売場での必要面積を算出した上で余った面積を余剰地として活用するという算出の順番であり、その逆ではないことに留意してほしい。

発言者 G 当初より水産としては現地再整備が望ましいという考えであり、現在も変わらない。

発言者 I 市場周辺施設との連携のみならず、従業員の生活基盤も現在の市場周辺に立地しているため、現地での再整備を希望する。

発言者 K 本検討委員会としては、現地での再整備を目指し、今後の議論を進めていく。

(4) その他

発言者 L 岡山市場を経由した生鮮食料品であれば安心して購入・消費をしてもらえるような、ブランド化がされることが望ましい。「岡山市場経由」を強調したシールを張るなども一案ではないか。

発言者 L 最近、生鮮食品がどのようにできているのか知らないこどもが多いため、こどもを含めた市民が食や農水産物について学ぶ体験ができるような施設が市場に整備されると、消費者としては地域の農水産物や卸売市場への親しみを持ちやすいのではないか。

発言者 K 検討委員会での議論を作業部会に共有し、部会での議論に役立ててもらうような体制があると良い。

以上